

概要報告

実施期日	8月2日(火)
部会名	中学校 数学部会

テーマ 『“まなびのプラン”を活用した、学ぶ意欲を引き出すための指導と評価について』

提案概要

<本校の校内研究の取組(グランドデザイン)について>

研究の柱を「学ぶ意欲を引き出し、自ら学び考える力を育成する授業」とし、2013年度には「教科指導に系統性、見通しをもつ取組」、2014年度には「PDCAサイクルを活用した授業改善」、2015年度には「目指す生徒像を意識した授業改善」及び「授業力向上」として進めてきた。お互いを認め合い、学び合い、高め合えることのできる生徒像を各教科・各学年で設定して、学校全体で目標に向かって取り組んだ。

2016年度には柱を「目指す生徒像を明確にした学習情報の作成」及び「まなびのプランを活用した単元計画に基づく指導」とし、まなびのプランとねらいカードを用いて授業改善を行っている。

本校の数学科の取組として、ねらいカードをどう活用するかを考え、まなびのプランを作成した。

<2015年度授業実践報告>

自己肯定感を感じられる場面づくりや他者を認める授業づくりにはどのような教師の働きかけが必要かを考え、1次関数の単元で「桜の開花日を予想しよう」という実践を行った。

<2016年度まなびのプラン作成について>

学習指導要領を用いて指導観点・重点学習内容・学習情報・年間計画を確認する。教師用まなびのプランとして単元計画を作成し、その後、それをもとにして生徒用を作成する。生徒用のまなびのプランは生徒に分かりやすい言葉を使う。例えば、「みんなにつけてほしい力」など。まなびのプランの特徴としては、まず時間数が決まっていて、つけさせたい力があり、それを習得するための手段として教科書があるという構成になっているので、つけてほしい力を目で見て分かるように示されている。

<2016年度の授業実践について>

連立方程式の導入(さっさ)についてのまなびのプラン(教師用・生徒用)の紹介をした。「さっさ」とは、碁石を使った数あてゲームのことである。まず、まなびのプランを確認させてから、実際に作業(グループ活動)をさせ、ホワイトボードを使って各グループの結果を共有した。

この授業におけるまなびのプランの成果としては、スムーズに内容を受け止める生徒が多く、ねらいを意識して授業に取り組む生徒が増えたことと、振り返りや予習としてまなびのプランを活用している生徒がみられたことである。課題としては、プリントを管理できない生徒はまなびのプランを活用できないので、プリントの管理を徹底させる必要があることである。

学校全体としてのまなびのプランの成果としては、教師の授業改善のツールとなっていることである。新たな項目を追加するなど毎年改善することができる。課題としては、どうすればよりまなびのプランを生徒に意識させることができるのかを考えていく必要があることである。

<まとめ>

まなびのプランで目指す生徒像を実現するためには、教科指導を通して、生徒同士が認め合ったり、学び合ったり、高め合ったりする場面をつくることである。それにより、よりよい雰囲気クラスや学年、学校になっていくと感じた。

質疑概要

・質問者：「まなびのプランを活用してみて生徒に変化はあったか。」

提案者：「毎回の授業でのめあてを意識する生徒が増えた。」

・質問者：「毎回ねらいを書くことによる弊害はないか。例えば、聞く力を育成できないなど。」

提案者：「ユニバーサルデザインの視点に立って考えると、聞く・見る・触れるなどにより、生徒によって理解しやすさが異なる場合があるので、どの生徒にも分かりやすい授業展開をしたいという本校としての取組である。」

研究協議概要

協議の柱① 「学ぶ意欲を引き出すための指導の工夫と評価の方法」

学ぶ意欲を引き出すための

- グループ活動(4~5人) 班のつくり方 **即ちいい学び**
- 小テスト(振り返り)
- 先をみずえた授業(50分のシナリオ)
- 活動をとりいれる(立ち座り、たり)
- 発言に対して評価する→スランプを返すシート **発言できる環境づくり**

評価にどうつなげるかが課題

指導の工夫

- 学が合い、深表
- 個と全体の時間
- ねらいを明確に
- 授業レポート
- 復習(振り返り)シート
- 挙手
- 予習(予告)

評価

- 授業への取り組み
- レポート
- 小テスト 確認テスト
- グループ課題

協議の柱①

工夫

- 今からな...子を行つ(時間のやりくりはする...)
- グループ学習を生徒同士の互いに共有する(4人位) → 学校としても取り組んでいこう
- グループ学習のやり方を作る(個→グループ、ヒントの出し方)
- 自分の考えと他に伝えることなど、きょうじ時間を作る。

評価

Cの生徒のための手立て

- 関心・意欲 → ノート提出、その他提出状況
- 書く、聞くをしっかりと授業内で分けていく
- 十、一の計算とベースにして、基礎固めのとある。3年後には、Cの生徒は減る。
- 小テストを多くし、学習機会を増やす。
- 範囲がせまいうと、生徒も覚えが長くなる

評価の方法

学んだ内容をどんな場面で見せるか、考える

"...しようとしている" **意欲** の評価

指導の工夫

- 授業作り(グループ学習、目標の明確化)
- 単元のふりがえりレポート

指導と評価の一体化の難しさ

評価

- 入りのところをいかにする(スモールステップ)
- できるだけ全員に声かけ
- 子どもどうしの敬意合い
- 課題設定、発問の工夫、方法
- 身近な事象と関連づける
- プリントを活用して、苦手な子に達成感
- プリントがシート
- 毎時間5問小テスト
- 提出物
- わかたこと、書きさせる
- 毎時間、前時のプリント

協議の柱② 「“まなびのプラン”をどのように使うと、より有効活用できるか」

協議の柱②

「みんなに対しては、たか」

⇒「ねらい」にする、良い

たか「振り返り」の項目追加

- 長、時間かけで書けるよう、枠を上げておく必要がある
- プリントの書き方も、きちんとしつけておく
- 922教科の計画のほかにある。

せうかく多くの力が、ついでで...

→ 単元の最後に、向きをみる活用できる演習ができる Good. とした課題もある?

“まなびのプラン”から評価にするのは難しい。評価に活かす必要がある? かなり厳しく考えても良さそうだが...

結論

すべての学習意欲につながることは大切

協②

シートの工夫(前の学年の内容もいれておく)

P12をみると子どもの書くスペースが少ない

⇒ 学習内容、ねらい、などは子どもにかかせる(章ごとに評価する?)

→ フォワードなどを授業で伝える

個人内で成長する様子がみられる工夫

⇒ 同じ問題をもり一度やりかえす 正答率をくらべた)

“めあて”に対してどこまでできたか A

⇒ 評価の基準をどうするか? なのかな?

学習の流れが見やすい(既評価に)

計画表

自分の何を学んだか確認できる...

まなびのプラン

<到王の意見>

見通しを持つことは良いが、出すタイミングは検討が必要。

- 導入では、授業の前にまなびのプランを出してしまうと、生徒の考えの幅が狭まってしまふ。
- 文章が長いと生徒のモチベーションが下がる。単語など、キーワードのみにしても良いのでは? また、生徒の意欲が出るよう、シールを貼るのも一つ考えた。

まとめ概要

- 数学が苦手な生徒に興味をもたせるには、数学的活動を授業に入れるとよい場合がある。ユニバーサルデザインとして、まなびのプランのような工夫が必要になってきているという時代の流れもある。数学が好きな生徒を増やすような授業をしてほしい。
- 学習意欲を引き出すような仕掛けや、視覚的に分かりやすい授業を展開することが大切である。また、主体的な学びとして、アクティブラーニングが必要であり、学習指導要領の改訂にむけて授業を考え直していくことが大切である。支援教育の視点として、ねらいカードやまなびのプランの活用で数学的な思考力を伸ばすことは大切である。学ぶ意義や数学の楽しさを伝えることを常に意識して教育活動に携わってほしい。それぞれの先生方の学校で本日の内容を活用してほしい。数学科の目標を達成するだけでなく、目指す生徒像を育成することを目標にしてほしい。